

土浦市に研修・研究や 展示など複合施設完成

日本道路

日本道路が茨城県土浦市で整備していた複合施設「土浦テクノBASE」が完成した。写真（日本道路提供）。設計・施工は清水建設が担当した。研修・研究施設や機械センター、試験ヤードのほか、ショールームも併設している。研修・研究の場だけでなく、工法や製品、同社の歴史など幅広い情報の発信拠点として4月に運用を始める。



所在地はおおつ野1の4の1。敷地面積は4万1434平方メートル。研究研修棟、宿泊棟、整備棟、機械格納庫の4棟、総延べ9871平方メートルの規模となる。2023年1月に着工し、24年1月に竣工した。

研究研修棟は太陽光発電や地中熱ヒートポンプなどを活用し、建設物省エネルギー性能表示制度（BELS）最高評価の五つ星や、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギービル）認証を取得している。来場者が利用できる電気自動車（EV）の急速充電設備も配置した。

9日に現地で開催式を開き、日本道路の石井敏行社長や清水建設の藤村広志取締役副社長らが出席した。石井社長は「ここで研修を受けた若手社員が、将来の日本道路グループの発展につながる『人財』となるよう、社員一同が精いっぱい努力すると信じている」と期待を込めた。

